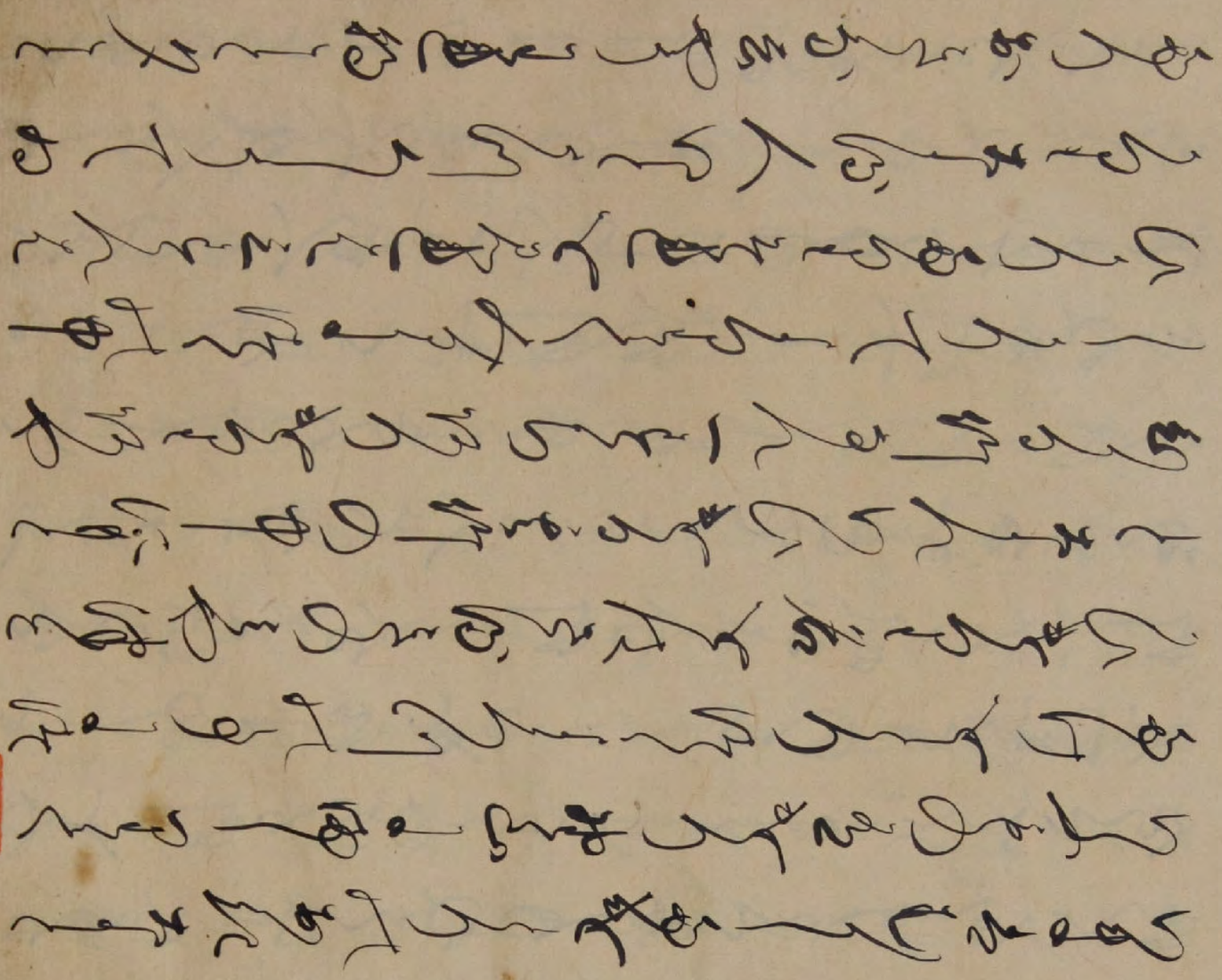
竹ゑり

上



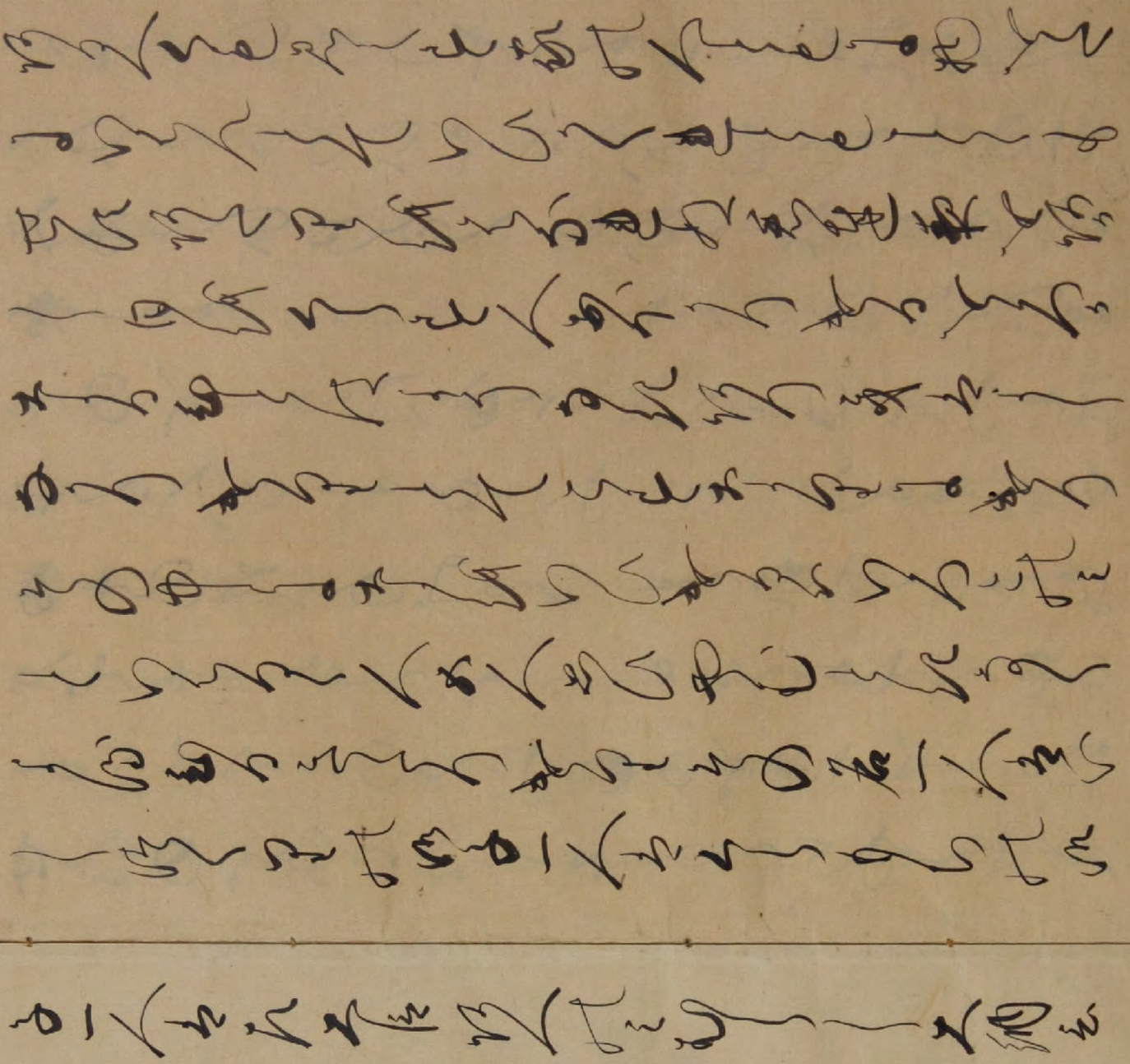
東京大学
図書館蔵

まよふなるを世の中にはあしとそろめく
ありぬべきにもありつゝ人々人なあ
ひとしそよりちなくもしてゝろく
さめなる女よりはれをく気したよ
くれぬれくゝ見すろうなうしにと
あさなをもこゝろに入て気したふ
ゆくらりのおきなゆくるにけるを
見つをくのちとりものをみにて婦しと
急てにてくよこゝろのはなゆくとみ
はくなりきてたりぬくてれきな

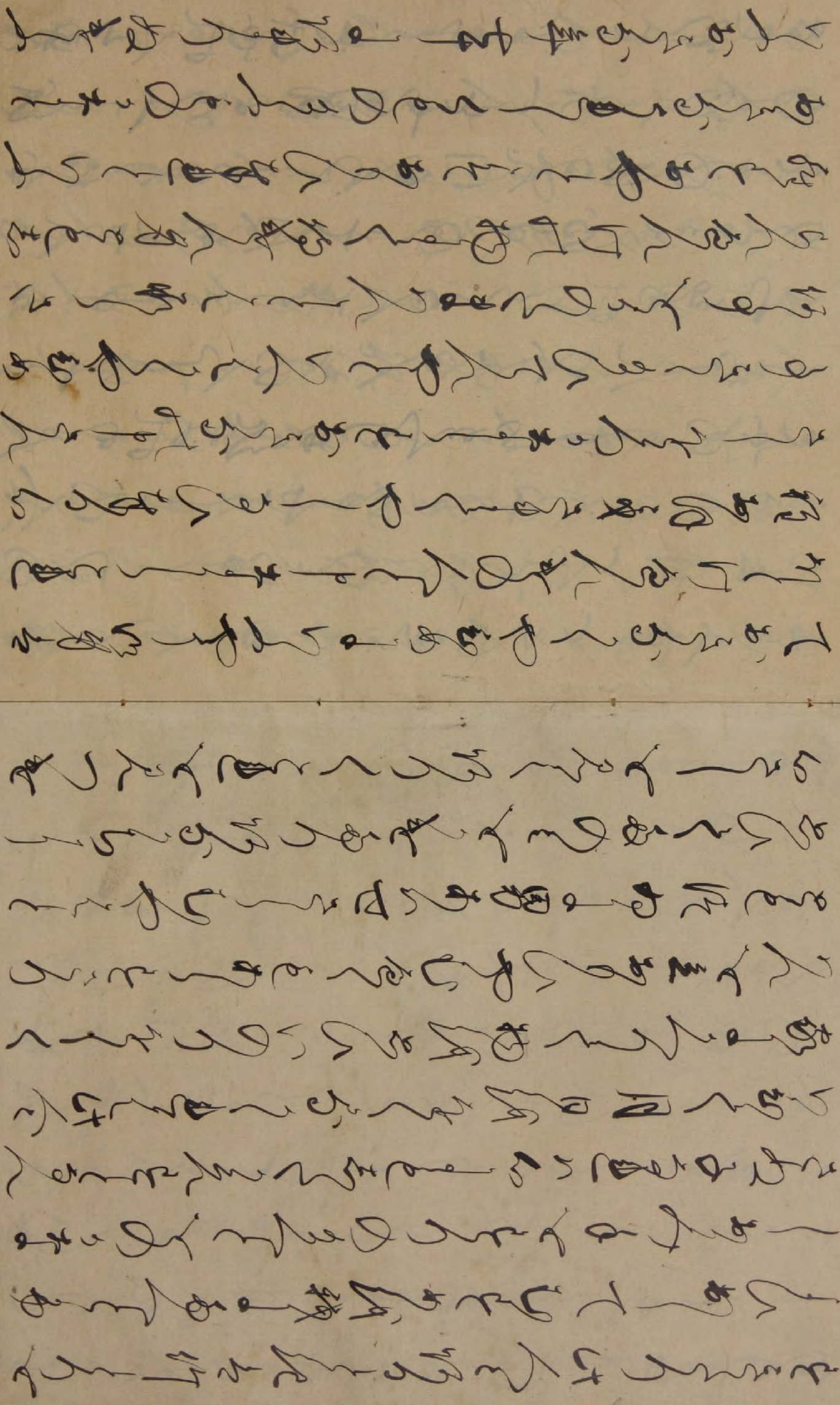
やうくゆくさになりゆくけらし気し
たふれしにもくしてあはさるにすり
まさる三月くらりになるれしなり
なれりしたる人にたりめでいみ
はをたしさうしてかくはをさきさき
らやうの内よりもおきさとひれ見し
つれ気しなふ程にけちとれくらの
けそりたる日すせにたく気の日に
くう見しところたく気りみちなう
おきなることちはしもくならしさ時も

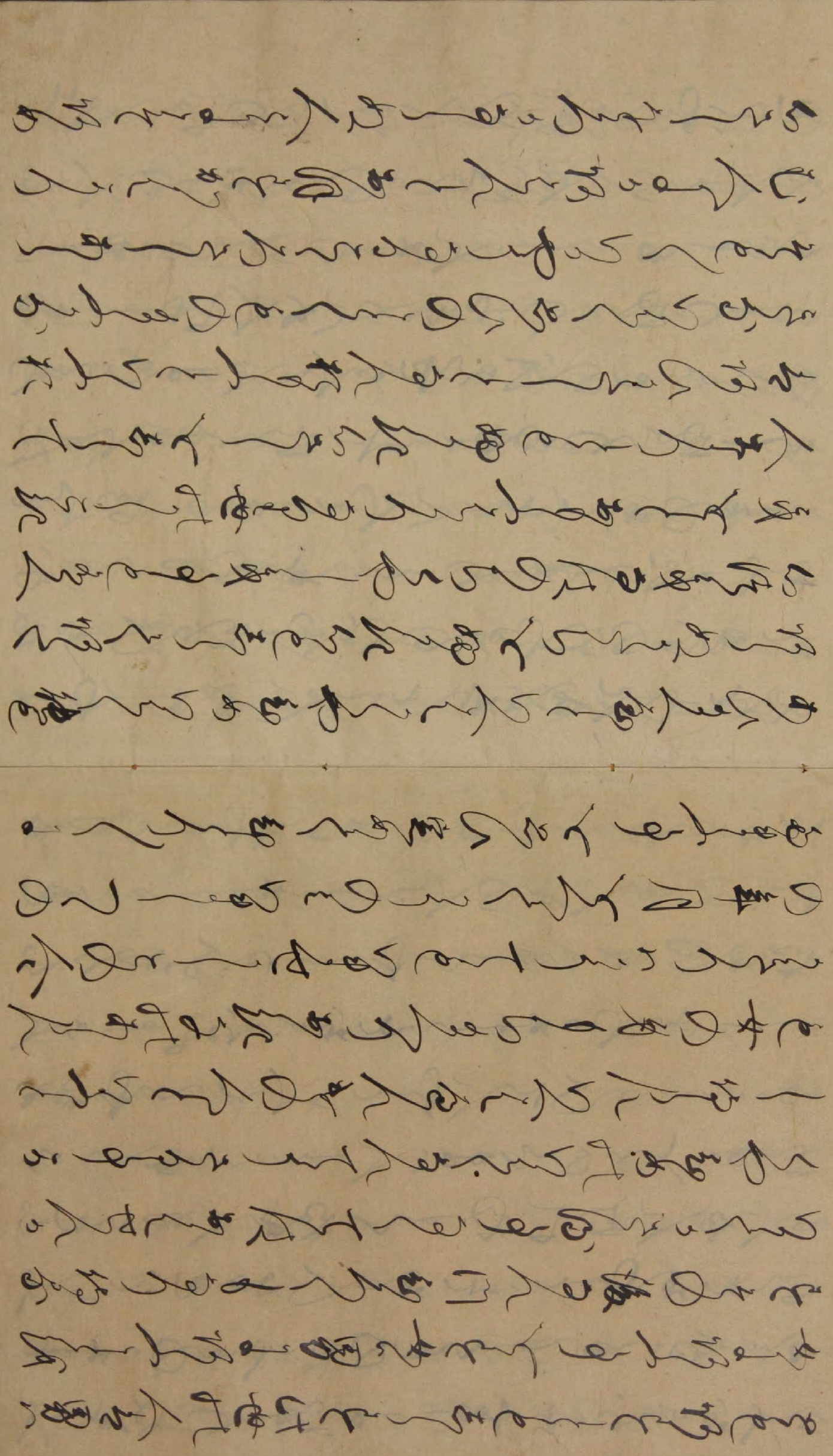
このみとまもくるしこそすとやみ
ぬるしなくしまりもおもくなくさ
こまかおほかたをとしけすひさ
しくありさんにもろしけるいし
あはこそ姫はいふ名とみもしらい
もんのはかなくてとしひくつきさ見はさ
女あまり竹のなくや色めと付侍るこれ
けし三日ゝはをおもふまろけいお
そひとそしもろあしとりかをこし
かれもひわしなくいとしとくはかふ

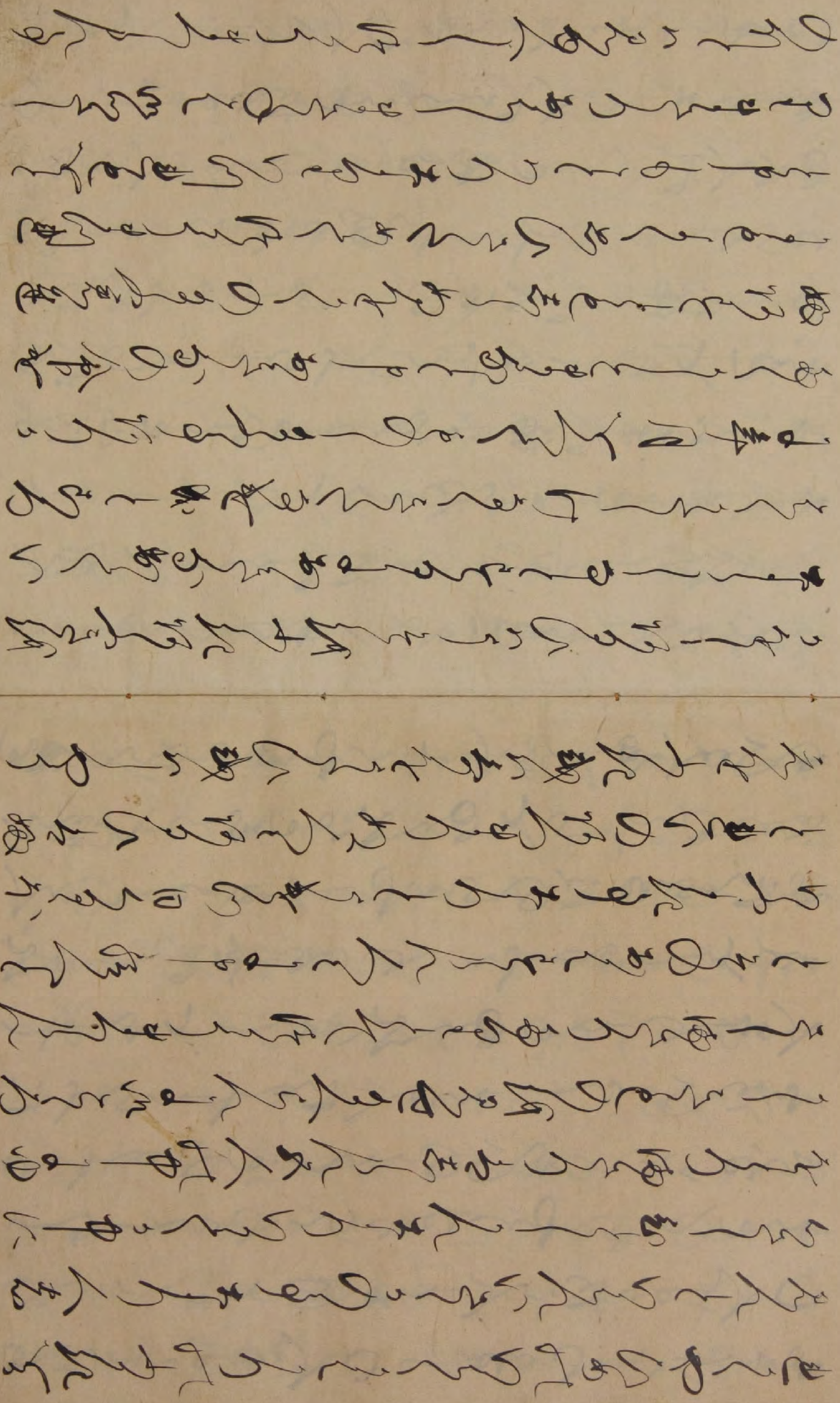
世はのさだめなくおもひもいやしき
もいはくとのなくや色めとえてしこれ
見てしまれをしるまさくめて御と
姫その限りれさくしも取れしますと
かる人あまり女らやとくみるまき
ものとりんは御もれいよもやまされ
乗りもこくしこあものそれにまま
み御らひは色りさはされりすなる
そひゝいひひまる人の御もせあ不
よもらひはりをとも太りまれ志あ



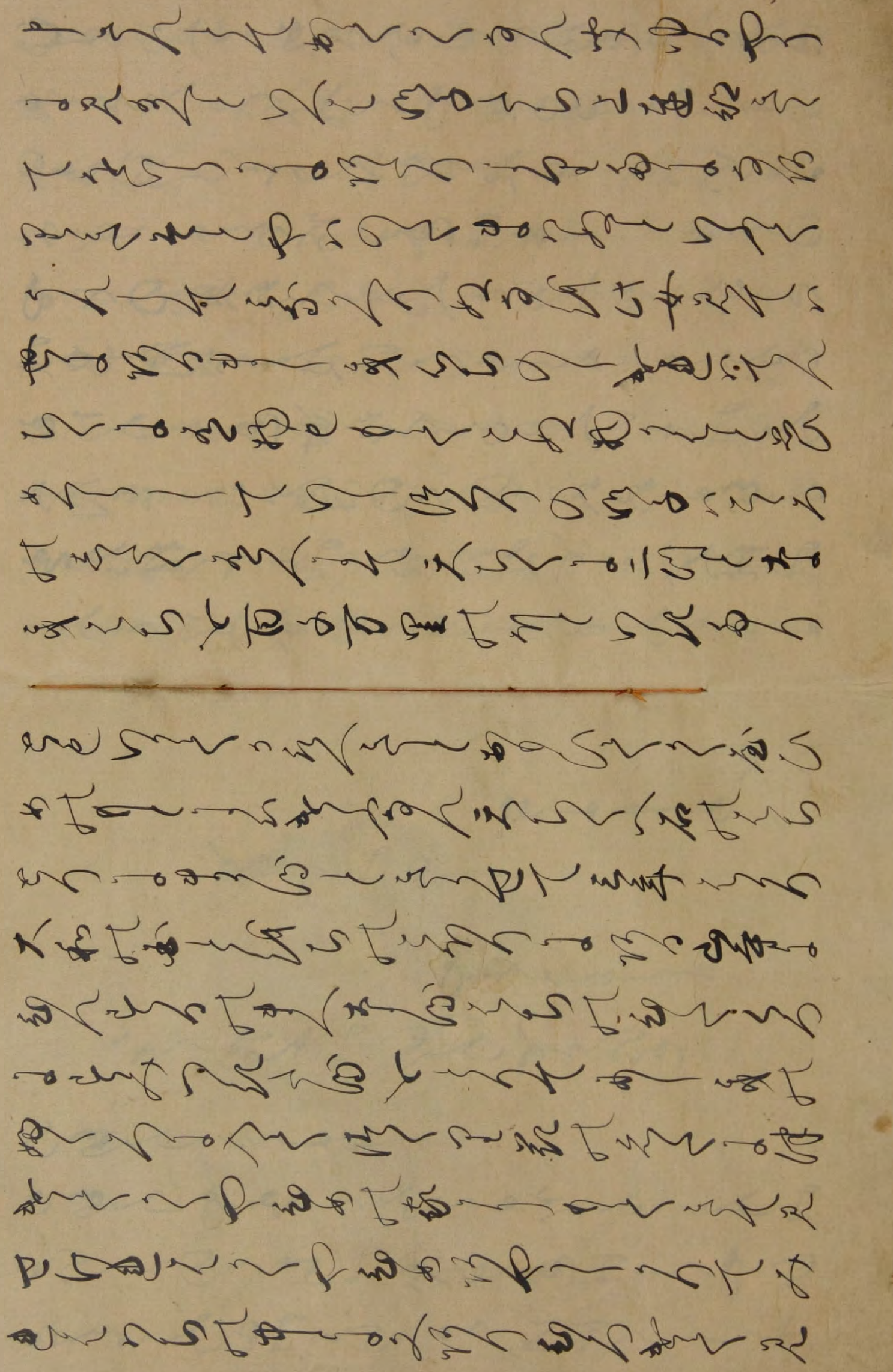
ゆゑよりあるかくとてもとも
こらしてしこうしてこれをとて
かくあらんとてやあるを
えまりうしてものもくらひ
のあるよりうくもとりうを
もしとひうくとくとりとえと
て色色しるものせとうひうく
ものうくうくはりくとひなる
しくとくもくもくもくもくもく
りうる月はて月はりて







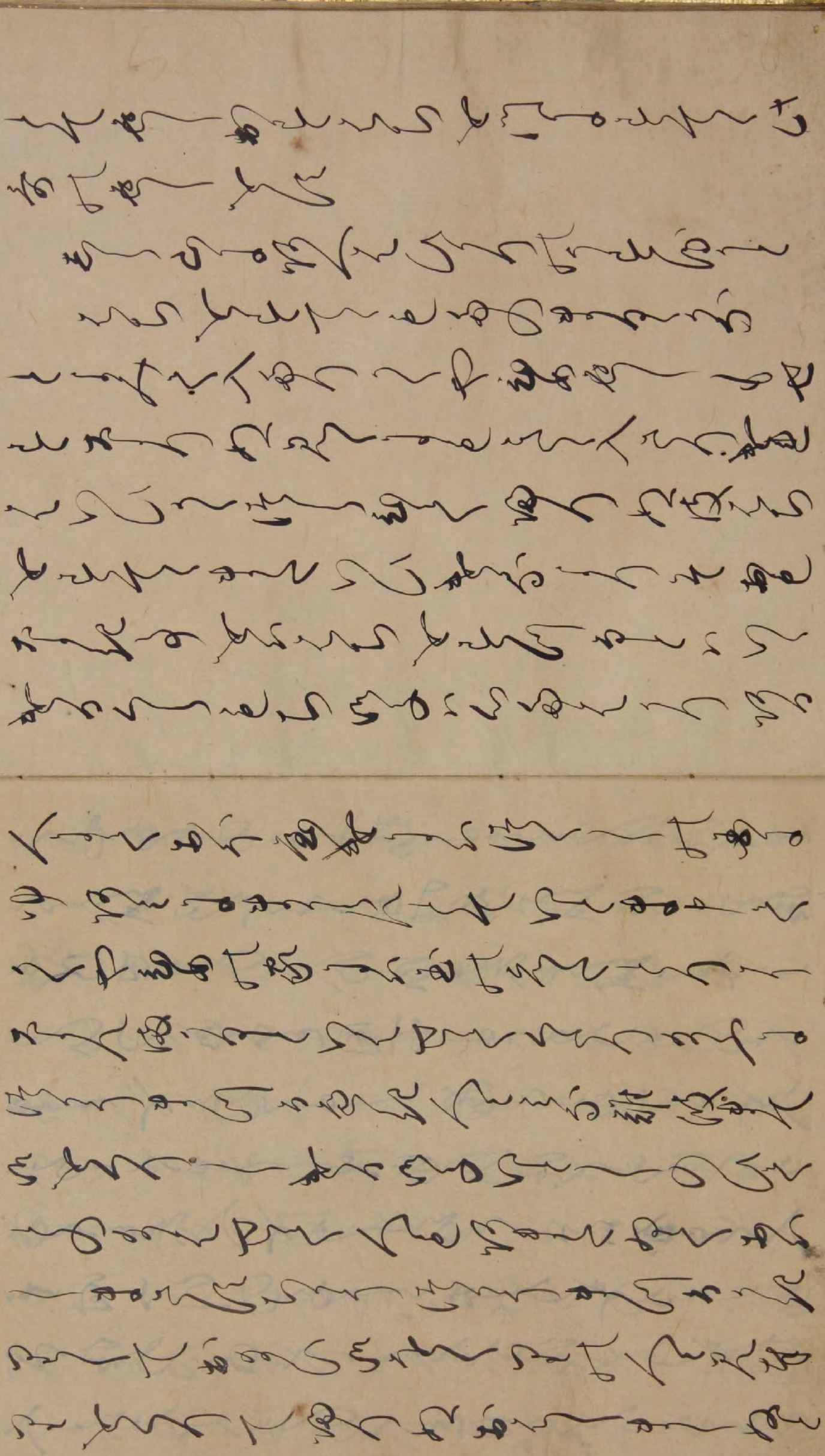
いそをよりたまをひろひ
給ふ事なり人間を
始め人間をも給ふ事なり
かりそめにもいとをあ
ふまい仏の石のそばの
そをとるくるしみ
ふまい海のそばをとる
なりそをとるとねがふこと
とそをとる事なかれ
ふ事なりそをとる事
うんとうんと今和
さ出給ふとそれ大仏
の飛石のくらいの
むりそをとるとそれ
中納言様はくるめ
ものの見たくあること
さるようそれ
もけまいものの
くかれるようと
ようさんとうんと
むりそをとる

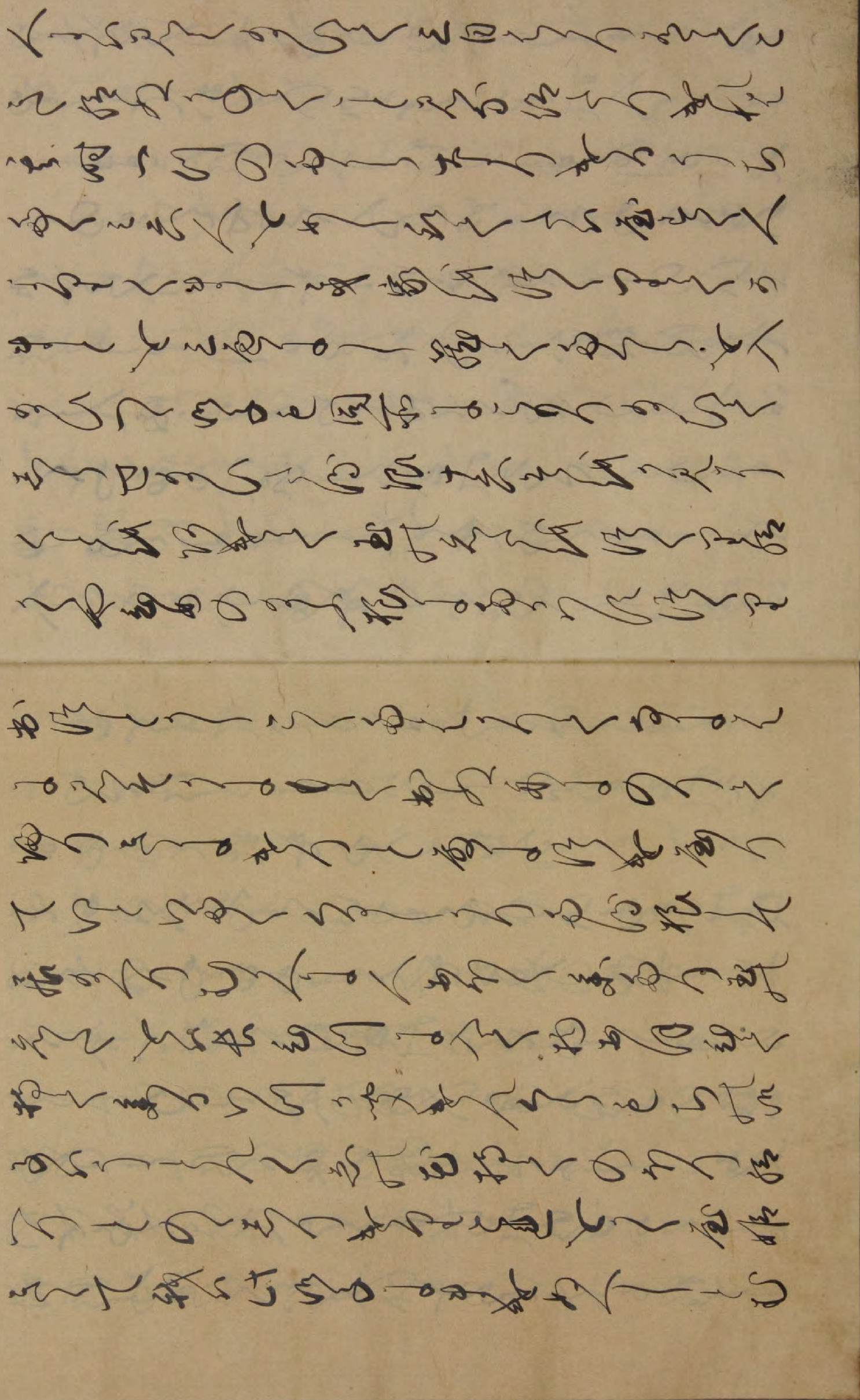


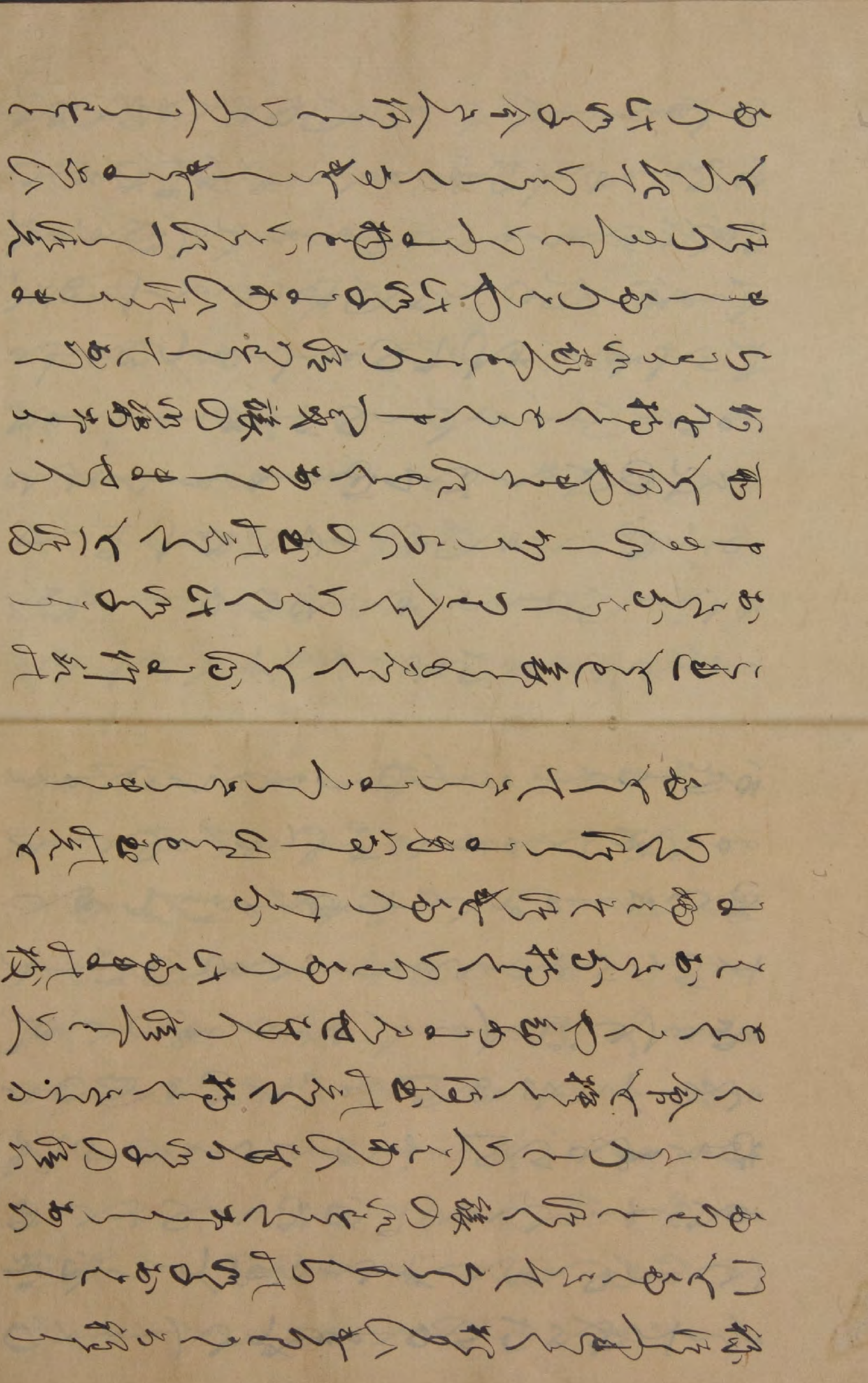
ちよのはるこそ
きこえけるやひ
めもすやそとうるはるこそ
のもすりさるなり

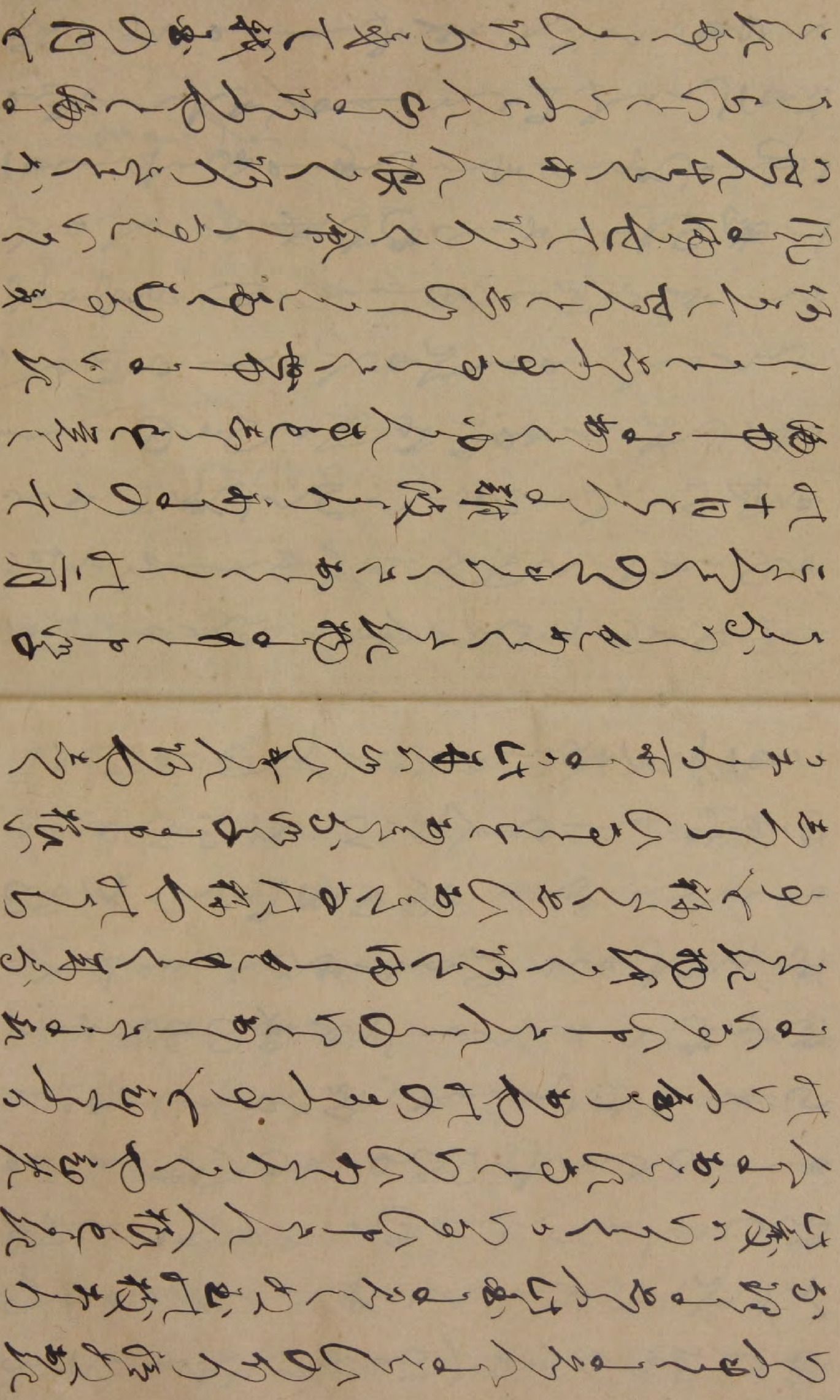
そのはるのひとをも
やとこそ

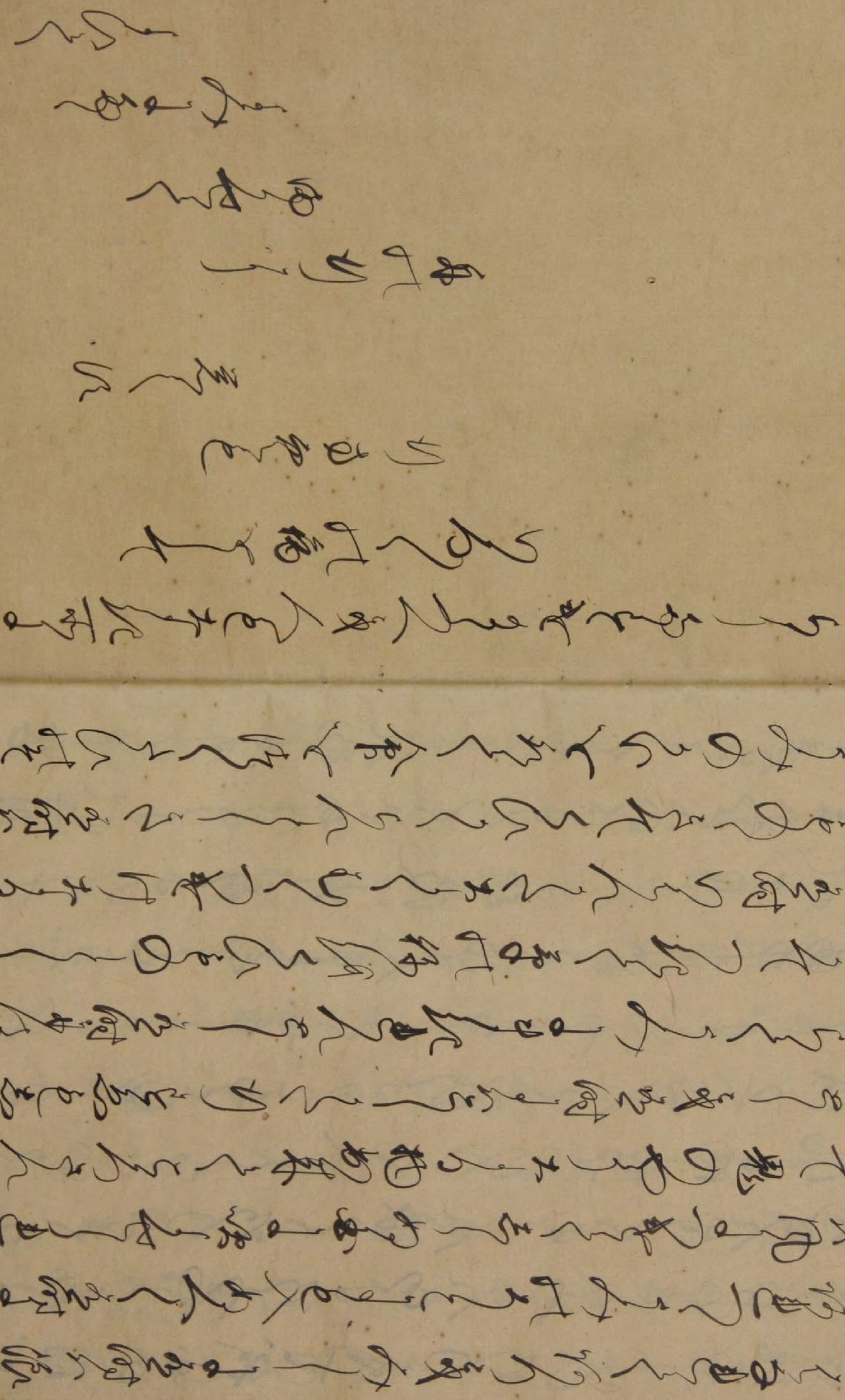
そのはるのとめ
ぬん





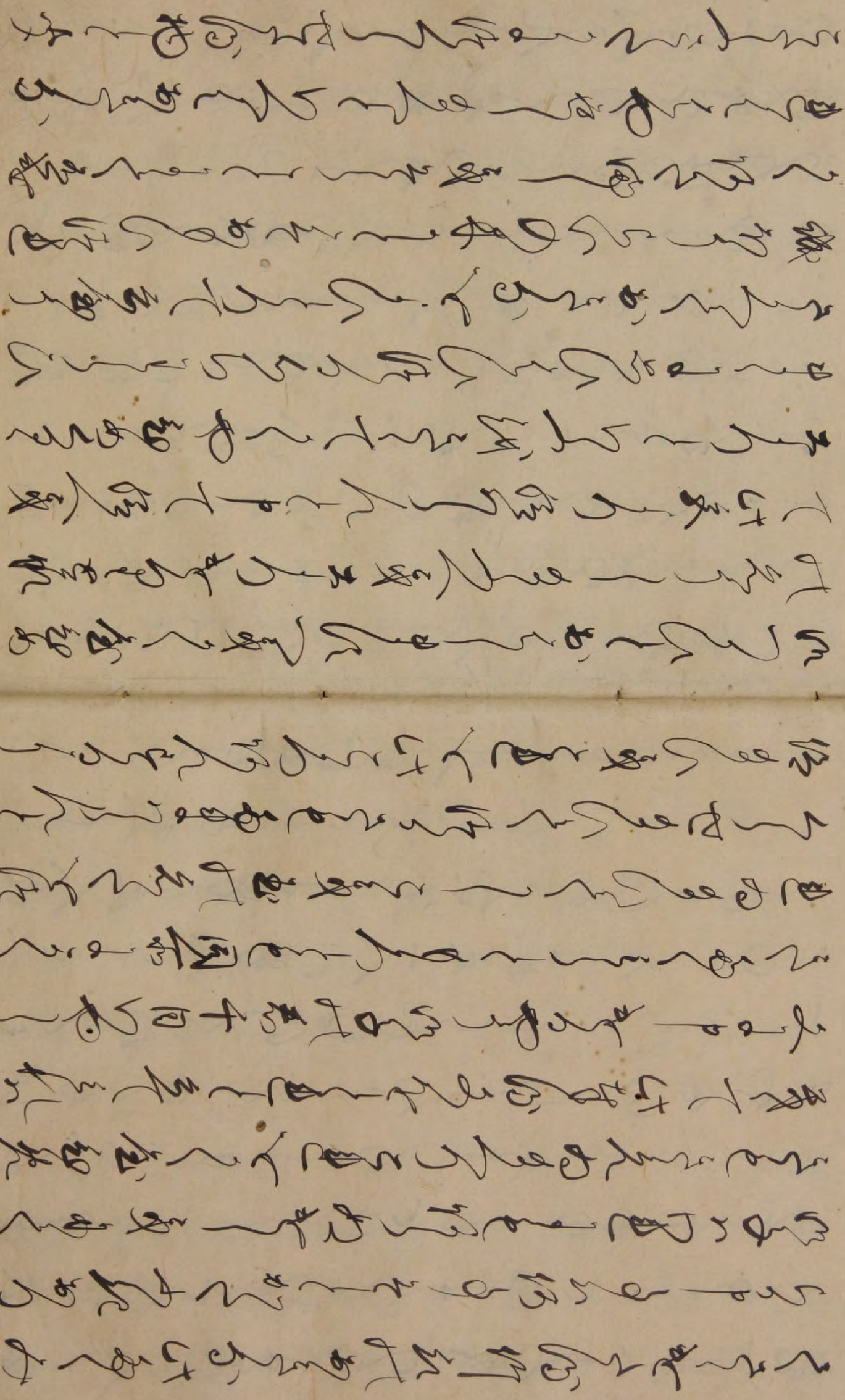


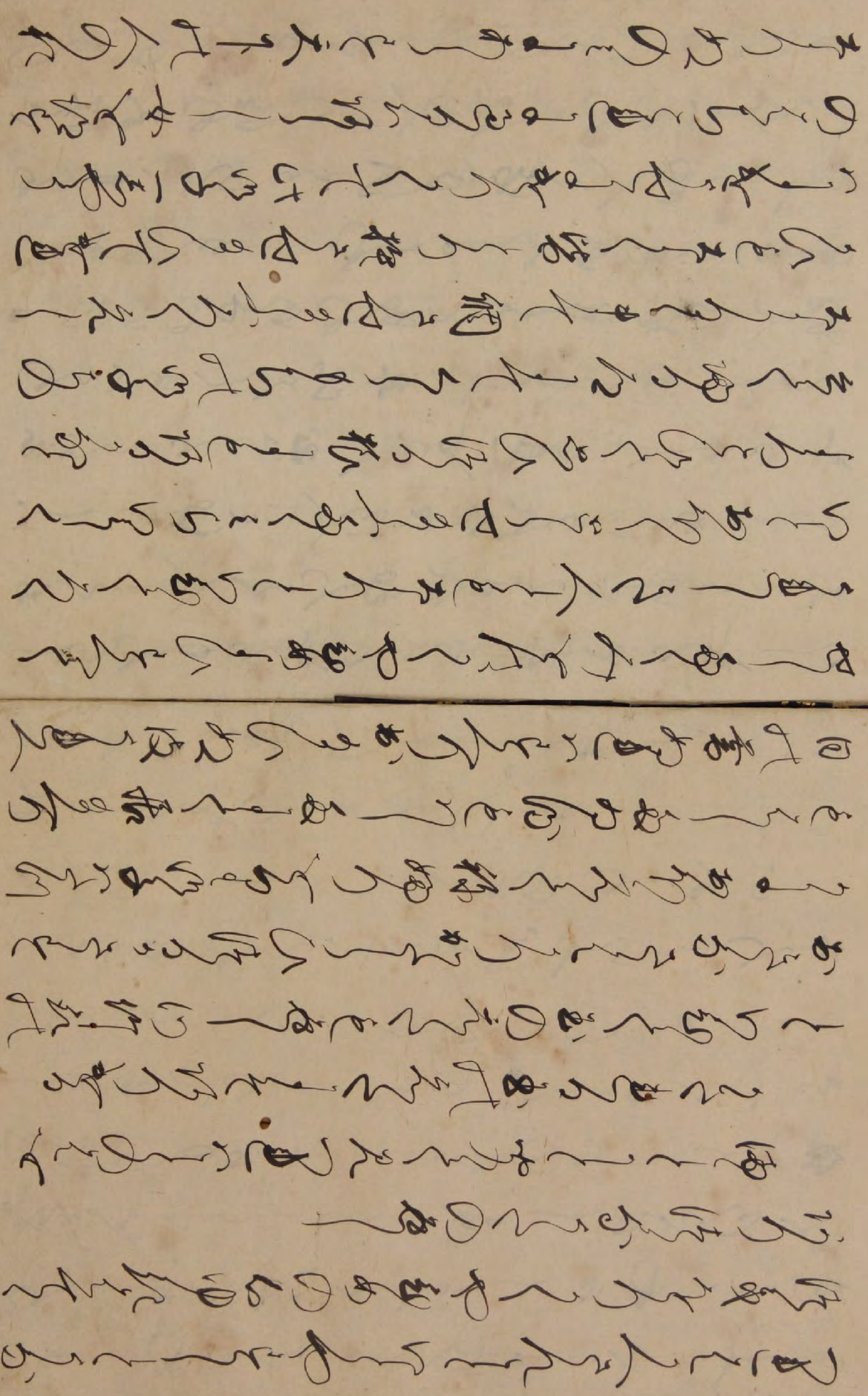


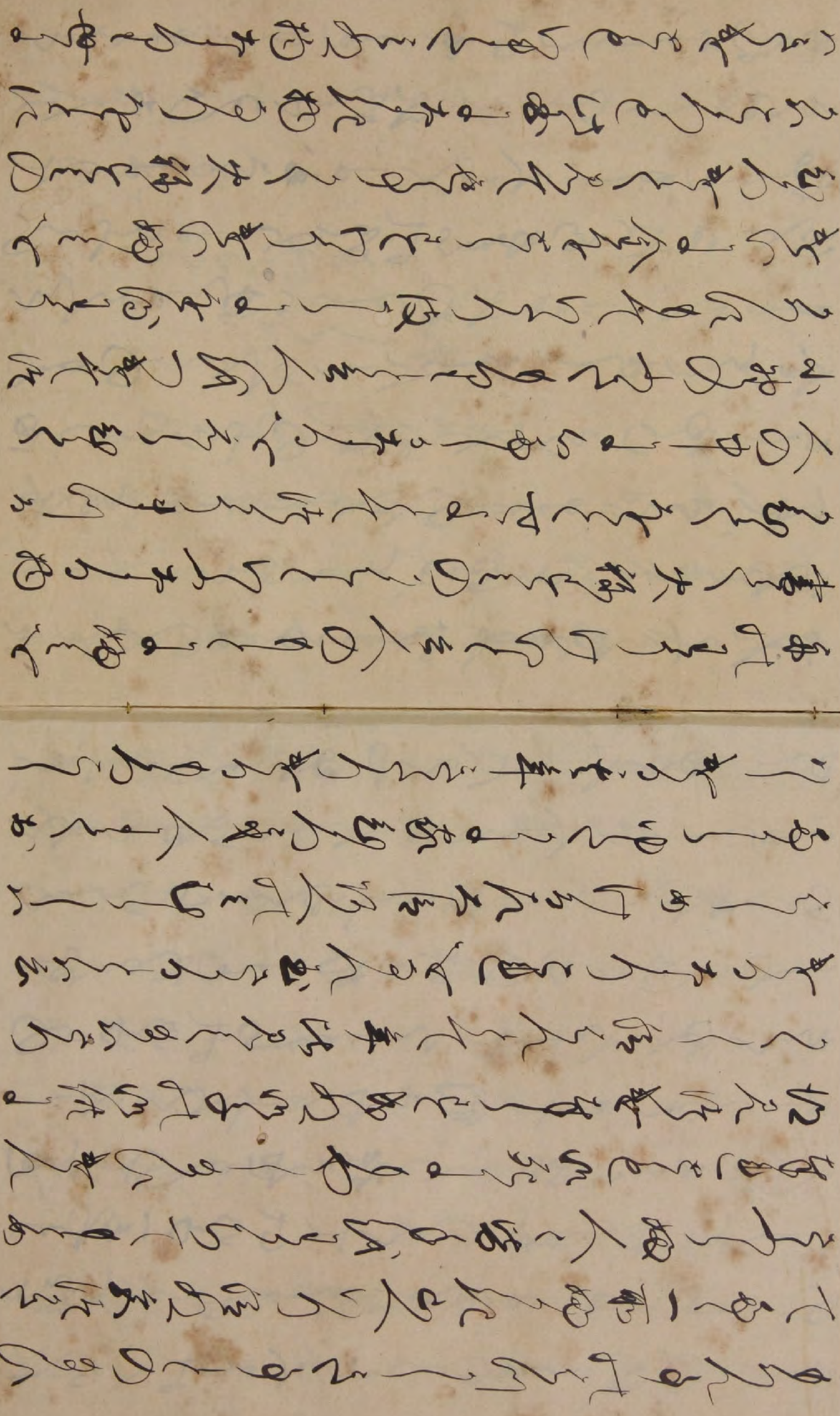


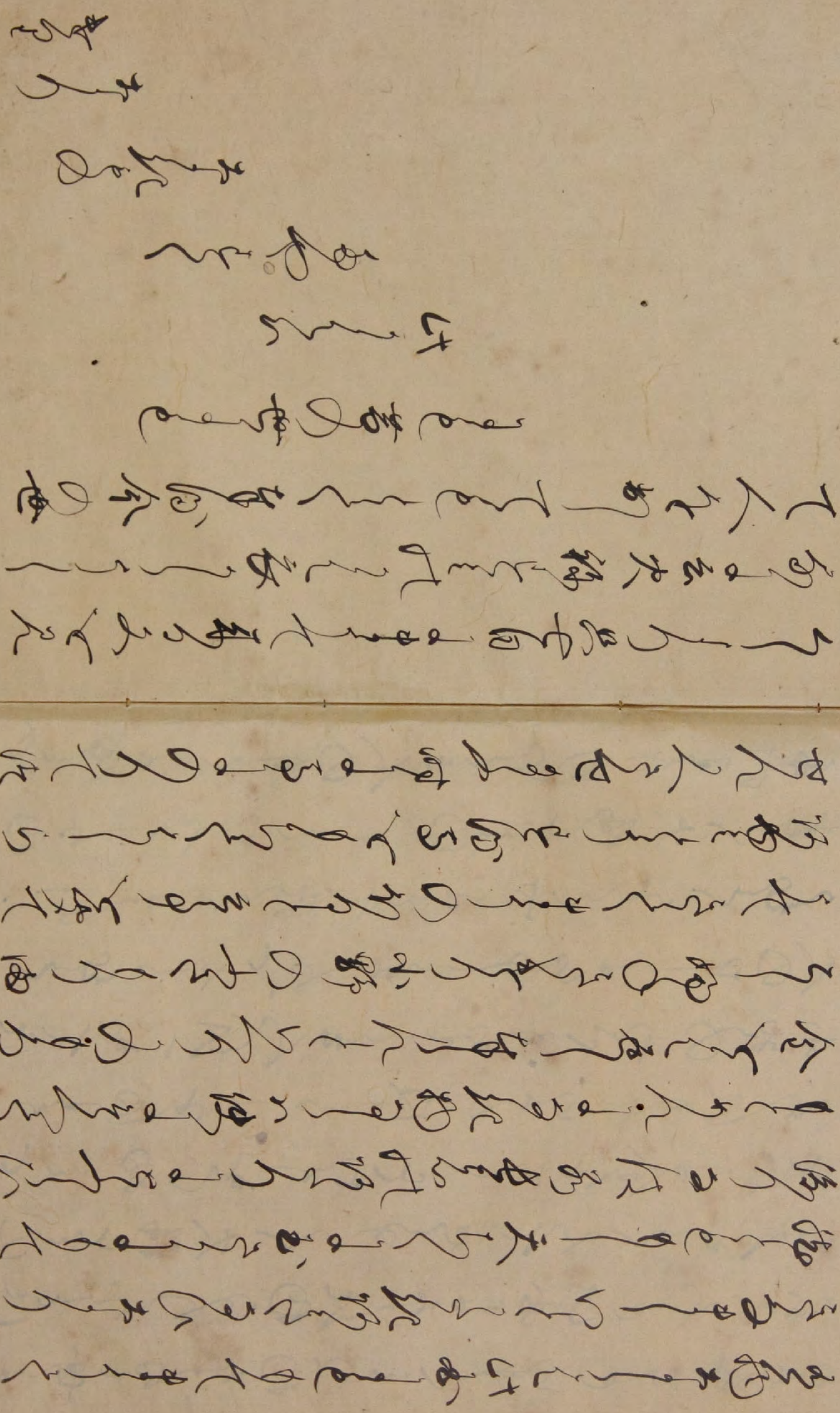
こゝをみるになりあらはてこれ山の
岩とはいへども女のごとく云
こゝはわりなる山のありとこゝろ事
を見よとふ事てくる所給ふ女にて
のくまふは御ぞし給ふ我岩ならう
ん名もまと云てふし山の中に入
ぬその山岩見まさらにうるはしく成
根すし其山は云紅とめくもて
世中まされもの家たえそう金
まかりうる前り名は外山より流ならう

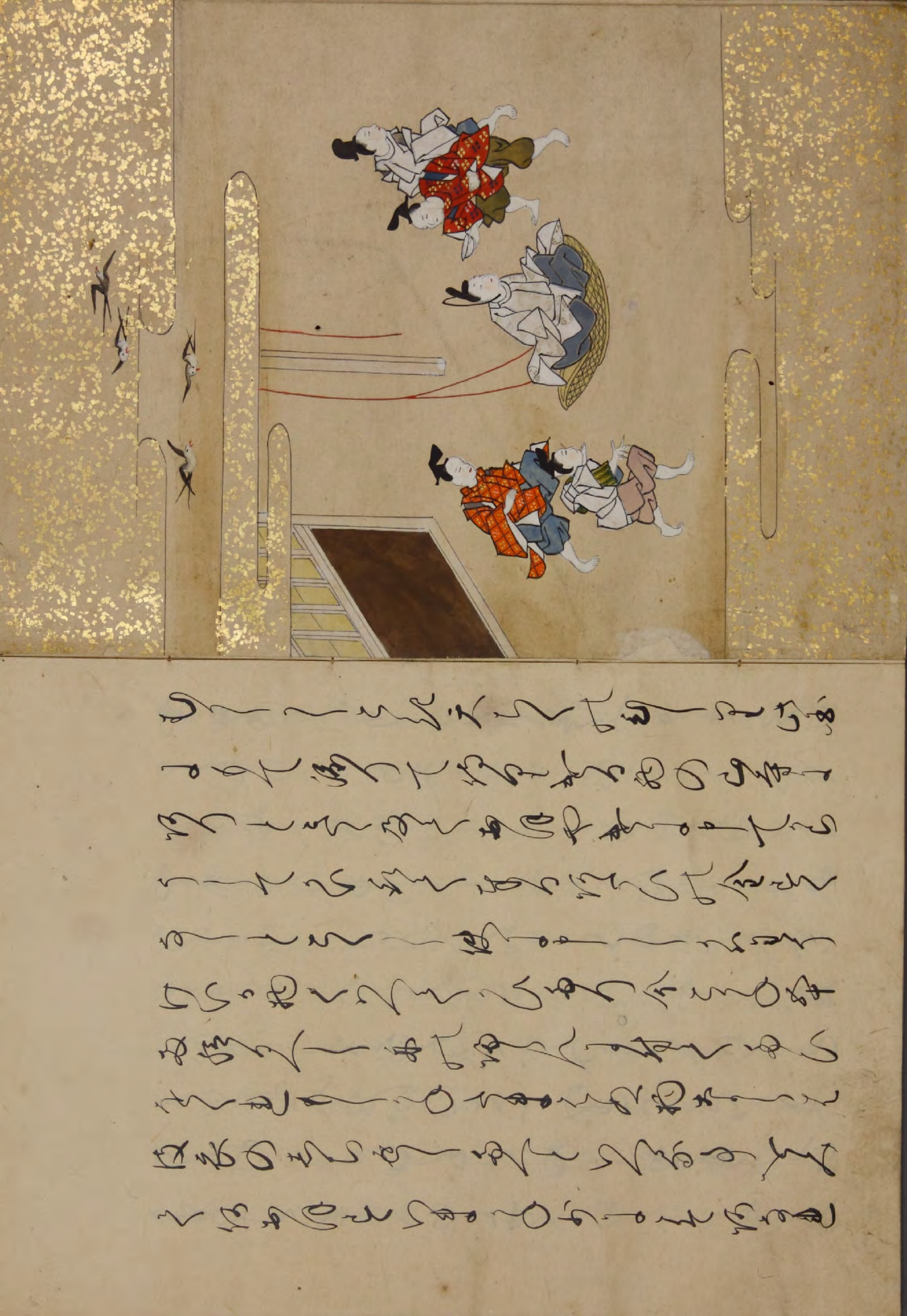
そこはよ名のこれはの橋後せり君侍
ありよてりうく多く家名(?)人ありその
中なはえく物そまりてさうらし
さゆしまひかうしたのおりしよ
あらはれしてこれ也をれてま
まて東西北山のうりなく南伯志
世はなとしくさるよあつさうしきと
はえくとれてしうしさるよありしおよ
くそあまのりてあひ風吹く冨余
日よなへまそてきのし大刀かしや











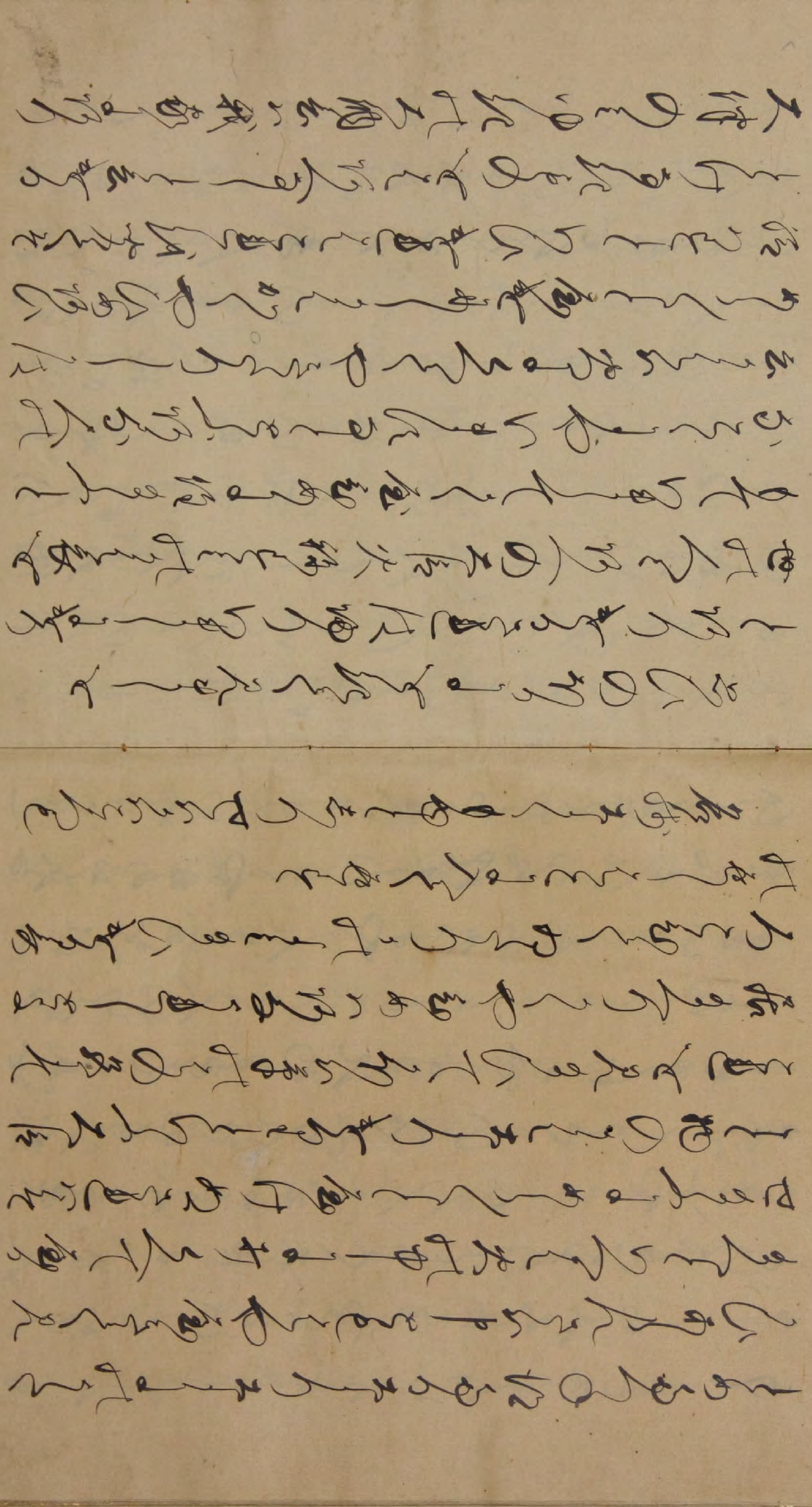
ましくちくおとせ給ふかくてまつ
これそよしなく姫しあそまて
そこそめ入ものいふとみきなくさくみ
しのひあひ見あかりといろみえく浮くまし
けしきもぬと見えまことにしやうれ多
ありけのところまことのえしらく
やさもりものしとみえしゆりしある
まつぬ人を抱かし出るにまけぬするよ
つもけりらちかす恨すしうつく
やまあこれはしるを待つるこそあけ

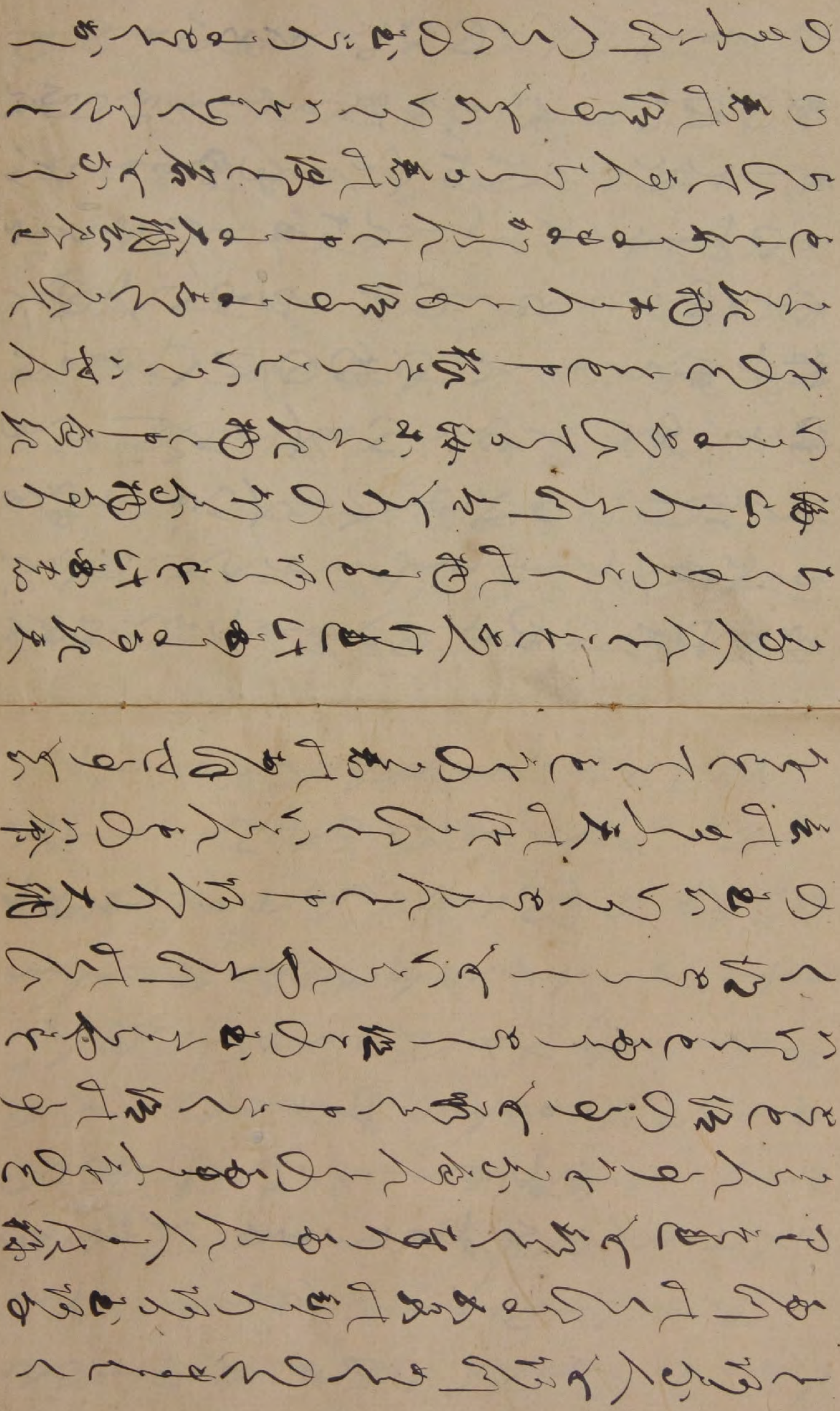
ましのくまひとく待ちかりしこしてそこ
よ入すひさくとのくえてよつまくれ身
のけさうゆとゆそくしてそありてく
まりきんよのそうしありてうてくみ
くろうくもろく見ましもりそみ出
そそうちれ出でよまけぬかれとるとも
ものりしかしきそふそるきゝめ
とゆるりなれ門よもくゆをりてもて
身竹れおさそとうりへくくさしあた
見えてくや名あれそぬ年見くゆか

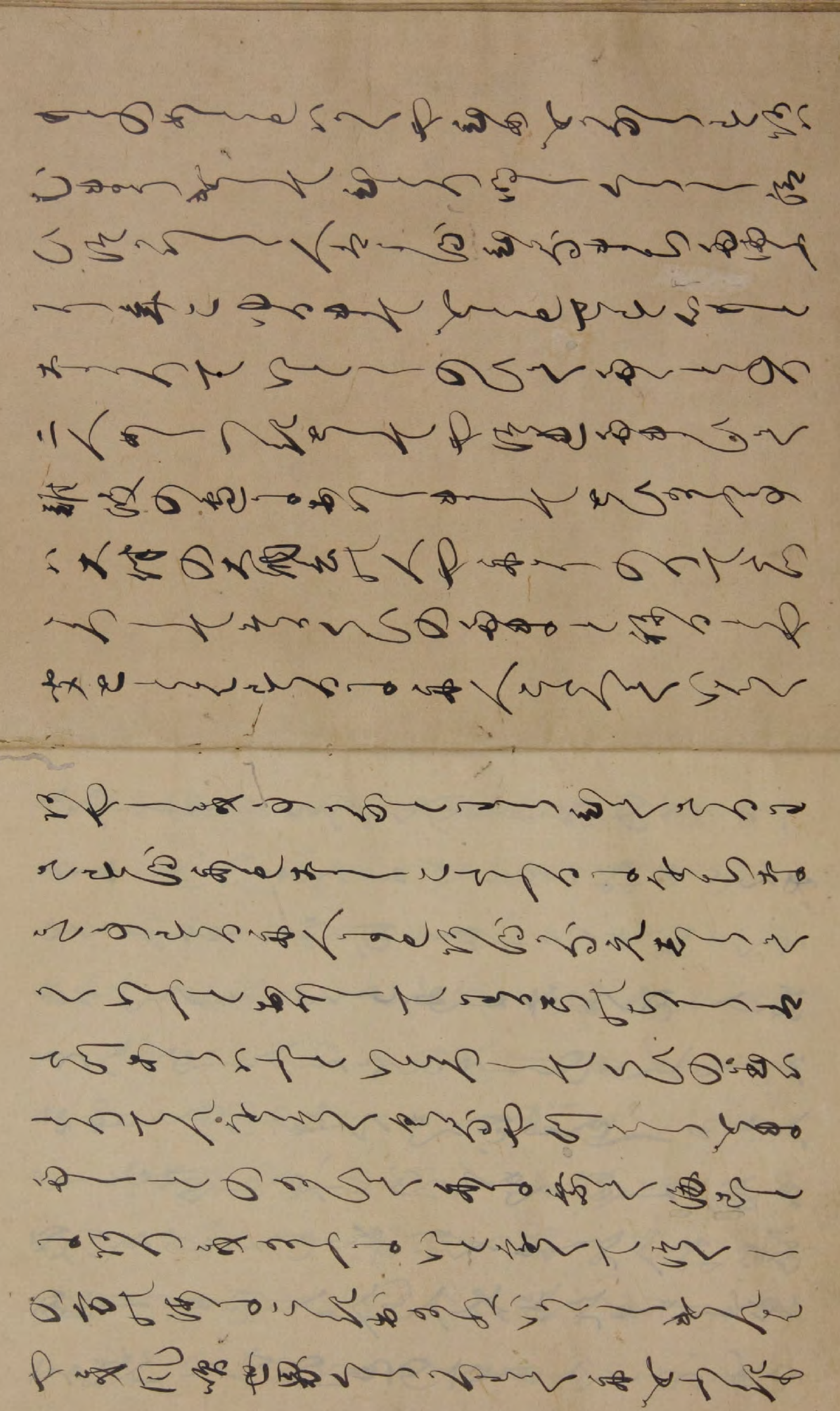
[illegible]

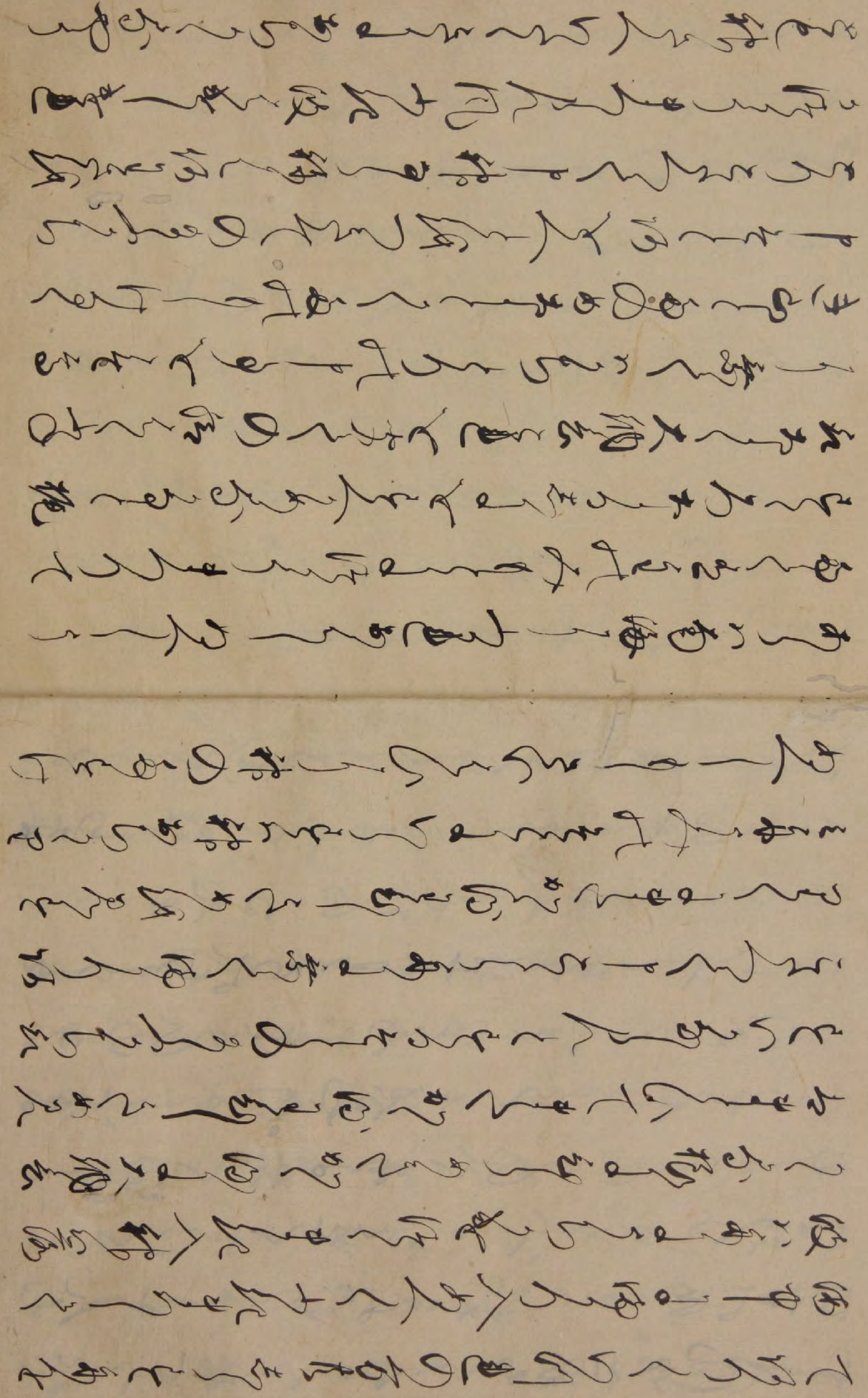
[illegible]

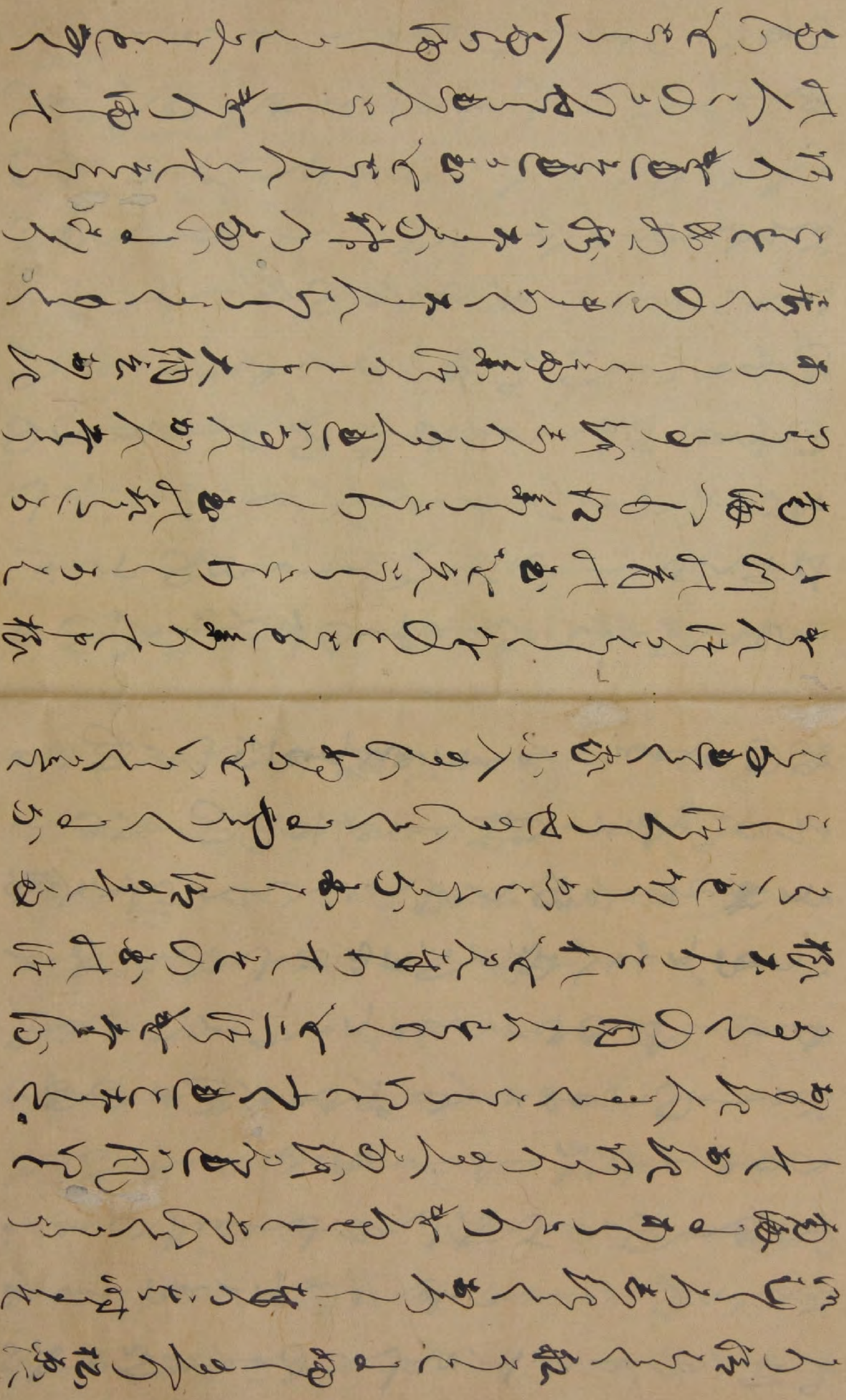
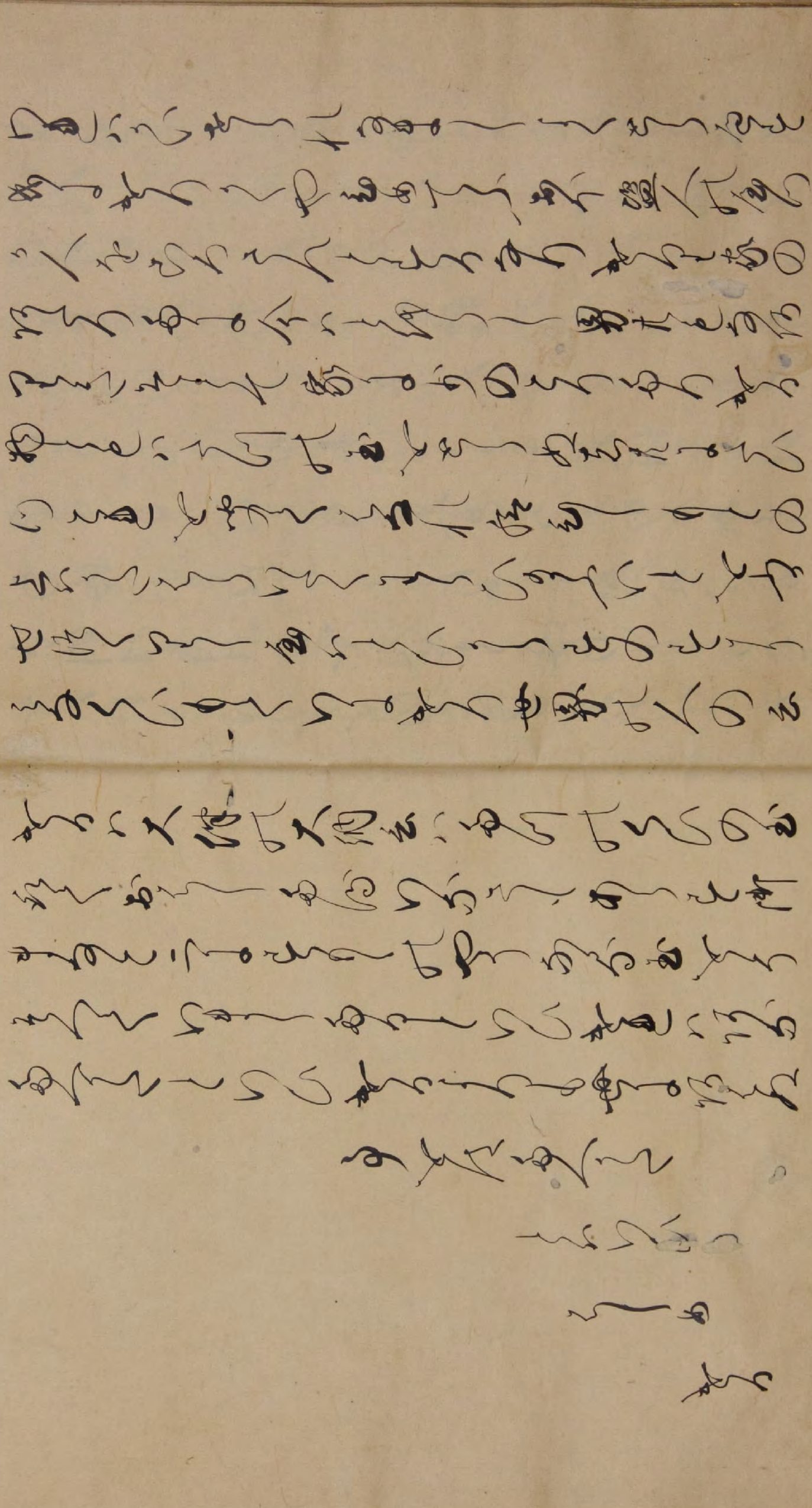
[illegible]









あるは時とゝろさんへしもの給ひてほう
るりのやくしをまうけは夢のうちにあらはれたりて
やかて御まうでにて給ふよりそて
らんの山神もうしめせ薬たりく給
さるくさ川とゝろさんとおひもりかすかゐ
みのちは毛一ところとさるようこうしゆう
しとし給へるちらくみるうらく
よろひのすすみ登山すうけりや
あらんやうく神すりやまあれかもとり
て風をれんやくは御れのいらくとれ

時の吉ふさうよろこそあかし出らく風ゆる
ミすは今大かりほし気古は風もあわう
と絶えさるよ鞍くかくもうしう大
ハとまとき入給うれこ四月かくく御そ
給しうせ色をとくきまとられしけりまれ
ほしのちまたり給しも大綱古南海の
くまよかれよせしまもうしやほん
とあるひくいれつさかしまかりあよ
ほうそのとしも御よつきさまて色々
れ後うさしまりてをうつ御うよとはあれほ